



## 福島・宮城 研修会へ講師として参加

7/8 JA 福島中央会にて「福島県 麦・そば・大豆生産拡大推進会議」と7/12 宮城県大崎合同庁舎にて「令和4年度宮城県大豆研修会」が開催され、弊社から講師として東北第二 國分副所長・東北第一 斎藤所長が招かれ、大豆の需要動向、課題などを説明して参りました。

「福島県 麦・そば・大豆生産拡大推進会議」では、農業振興や担い手の育成を担当する福島県内の JA 職員のみなさまに、①穀物高になっている要因、②大豆の用途、③福島県産大豆の利用先、④福島県産大豆の評価などが説明されました。豆腐製造業者・みそ製造業者からみた大豆選びのポイントのほか、出荷時に注意してほしい点など、生産者への指導ができるような解説も加えられました。



今後の課題として、海外産大豆の供給不安があり、国産大豆への期待は大きくなっていること。高品質かつ独自性を生むための仕組み作りの必要性を意見させていただきました。

「宮城県大豆研修会」では大豆生産者のみなさま方を中心に、宮城県産大豆の期待と要望について講義致しました。①国内における輸入・国産大豆の使用状況、②代表的な宮城県産大豆の利用者の声、③過去のクレーム事案から注意すべき点が説明されました。



期待と要望として、国産大豆への回帰から、地域間競争が惹起すること、そこで宮城県産大豆が選ばれるためには、生産者・JA のみなさま方との相互協力と消費の PR 活動の必要性について意見させていただきました。

11 年前の 3.11 以後のご苦労など、生々しいお話しなどもあり、JA 全農さまや生産者さまの熱意を感じ取ることができました。われわれにとって両県で作られる大豆は愛おしく、地元の卸売業者として「地域経済を支えるのだ」という責務を感じられた研修会でした。



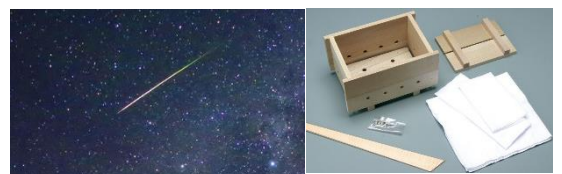
## 8月31日は「宿題の日」「学べる喜びに気づく日」

8/31 の夏休み最終日に宿題をやっつける。何年同じことをしてきたでしょうか。計画的に7月中から宿題に取り組む人もいれば、わたしのように最終日に一気に呵成に取り組む人もいたはずですが。わたしのような人のために8/31は「宿題の日」と制定されたと感じました。

8/31 が夏休み最終日なのでしょうか。調べてみると、札幌市・山形市・福島市は8/21まで。仙台市は8/24まで。前橋市・水戸市・横浜市は8/28までとバラバラの様子。コロナにより授業日数が不足したなどの要因もあるようですが、地域により夏休みの最終日は異なります。また、夏休みの日数も福島市の32日間から名古屋市などの42日間とは10日間も違います。カツオちゃんなら浪平さんに引越しを要求したくなるレベルでしょう。

そしてもうひとつ、最終日にはやっつけられない宿題が「自由研究」です。こんな怠惰なわたくしがお勧めする自由研究が「ペルセウス流星群の観察」「とうふの製造」です。

ペルセウス流星群は8/13の10時をピークに何百もの流れ星が見られます。中心から流れるのか、多い時間帯はいつか、多く流れる方向は?など事前に仮説をたてて観察しますが、1日で完了します。しかし8/13が雨の場合もありますので、とうふの製造の研究はお勧めです。大豆を水に浸す時間やにがりの量など豆腐にどのように変化するか、大豆の種類を変えると味はどうか、男ごころをくすぐる研究ができます。とうふ屋さんの店頭でも、とうふ製造キットも売っていただきたいものです。



# シカゴ大豆相場の動向について

7月29日 **1.5%**/**14.45**ドルと、先月末比△0.28ドルとほぼ横ばいの状況です。中国経済の鈍化と中国政府による米国大豆の輸入を回避する動きから、17ドル台から一気に値を下げました。加えてウクライナ・ロシアからの穀物輸出再開の合意がなされたことにより、再び下落方向に動きまわりました。

しかし、北米での干ばつ懸念報道がされたことやウクライナのオデーサ港がミサイル攻撃されたことなど、価格に対する不安要素は複合的に存在し、楽観視できない状況です。

一方で、物価高騰の要因のひとつとされている「ドル円相場」は、7/27のFOMCにて、次回の利上げは+0.75%と発表されました。利上げペースの減速に言及したことを受け、若干のドル安ペースでの推移となっています。パウエル議長の「今後はデータ次第」との言葉は、これまでのようにフォワードガイダンスを示さないため、値動きの不透明感が増しております。

米ドル/円 134.38 - 134.39円 (+0.16円)



## 令和3年 国産大豆の第8回入札結果

海外産大豆の輸入が不安定で、国産大豆に人気集中している傾向は続いております。また当月の上場トン数は3千トンと不作だった前年と同程度に少ない状況でした。

例年であれば入札最終回の7月には、その年の最安値となるのが通例であります。落札率(平均落札率 83.7%→82.1%)もほぼ前月と同水準で、価格も微減にとどまりました。

東海・関東などでは早々と梅雨明けしましたが、7月に入ってから、ゲリラ豪雨や台風など局地的に雨による被害が報告されています。夏場に大きく育つタイミングで、大雨が続くことは、出来高を左右します。来年こそは全国豊作で、安定した価格で大豆をご提供できる環境となりますようにと祈るばかりです。



区分	上場数	落札率	平均価格	前月比
普通大豆	2,579 トン	83.1%	<b>9,356 円</b>	△308 円
特定加工用	608 トン	77.9%	<b>8,458 円</b>	△417 円
合計	3,187 トン	82.1%	<b>9,193 円</b>	△318 円

【過去3年の第8回上場数量の推移】

区分	今回	前回	2021/7月	2020/7月	2019/7月
普通大豆	2,579 トン	<b>4,289 トン</b>	2,197 トン	2,326 トン	1,817 トン
特定加工用	608 トン	<b>964 トン</b>	813 トン	521 トン	323 トン
合計	3,187 トン	<b>5,253 トン</b>	3,010 トン	2,847 トン	2,141 トン

- |           |              |                          |              |
|-----------|--------------|--------------------------|--------------|
| □ 本社      | 03-3211-4831 | □ 飼料部宮城営業所               | 0229-25-8680 |
| □ 東北第一営業所 | 0229-54-1151 | □ 飼料部福島営業所               | 0243-24-1240 |
| □ 山形出張所   | 0234-21-9144 | □ 大豆選別・挽割加工工場(宮城県美里町)    |              |
| □ 東北第二営業所 | 0243-24-5818 | □ 大豆保管定温倉庫(宮城大崎市・福島二本松市) |              |